



闘いつづける富士タクシー分会

全国一般労組大牟田支部富士タクシー分会は、かねて夏期一時金(期末手当)闘争をすすめていたが、一度は統一交渉の場を安堵にいたったことをその後一方的に破棄するなど、会社(吉田松社長。大牟田市白金町七十五番地)のあまりな態度に怒りがついに爆発、盆の十四日を期し無期限ストライキに突入。闘いをすすめていく。

同分会は、同じ組織でつながる鹿田、中央などのタクシー分会とともに、夏期一時金を要求、統一

## 闘いつづける富士(全国) 会社の破約に怒り爆発

期末闘争

交渉の場を八万五千円(支給日は八月十二日)をもって妥結した。その後、同分会は別の付帯要求などを、会社側は引き続き統一交渉で妥結したことを、一方的に破約して、八万五千円を三回の分割払いにするのを申し立てた。盆の十四日を期し無期限ストライキに突入。闘いをすすめていく。

この狂乱物価のなかで、低額な一時金をさらに分割支給されては、どうにもならぬ。分会の反対は当然だった。

ところが会社は、「分割払いを

# CO・遺族闘争

## 緊急性を加えた闘い

### 要求獲得の団交を開始

いま、三池のCO患者・遺族の前に、それも幾重にもかさなりあひながら、重大な問題が投げかけられている。三池労組はそのために、すでに会社に対し、どうしても看過できない要求をとりまとめ提出、団体交渉を申し入れていたところ、きたる十日ごろから炭労と三井鉱山との間に交渉を開始するまでにこぎつけた。

組合としては、一方の裁判闘争とともに重大決意をもって交渉に当たったが、すでに具体的な闘いかたもきまっていた。目前に見る物価再高騰の動きが顕著なだけに、闘いはひととき緊急性を加えている。

### 大衆行動も断行

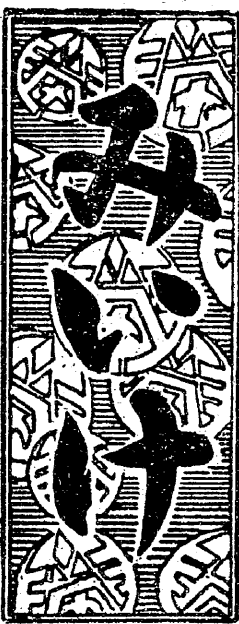
本紙でくり返して伝えている通り、このころCO患者の間から死亡者・再入院者(しかもほとんどが重症)が打ちつづき、九・二八製の両工場に働く大爆発遺族の間、日ごとの無理がたたり、神経痛などの疾患が広がっている。

三池労組は三池大爆発以来終始CO・遺族闘争を組む、そのつと一定の協定を勝ち取り、不十分なながらも、せめてもの補償をさせてきている。

だが目前に見る狂乱物価は、前回の協定を焼け石に水と化し、

それが幾多の苦しみ、悩みをかかえながら生活しているCO患者や遺族を、重大な危機に追いこんでいる。

一方、職場では高温のため熱中症にかり倒れる労働者が出、統廃する犠牲者に坑内の保安不良がさらけ出されている。



発行所  
三池炭鉱労働組合  
大牟田市不知火町2  
電話 33033番  
33034番  
編集兼発行人 山下 開  
半年間1,000円 送料共

### 刑法改悪反対 講演会開く

このほど田中内閣は、治安立法の現代版ともいえる「刑法改悪」をたくらんでいる。これは平和と民主主義を破壊し

ファシズムの抬頭につながることで、国民の間で問題化した。この十三日午後五時半から市民会館で刑法改悪反対講演会が開催される。講演者は長島兼三郎元九大教授ほか。多くの参加を期待。

### 重要問題を討議

#### 有明炭トラック輸送反対

中央委

三池労組は去月三十一日、三川公民館で第三回中央委員会を開き、CO闘争の推進について、賃金展開、高温闘争について、社宅立ち退き(大谷・原方市・

に破棄。またこれ見よがしに、第二組合員にだけ新車を扱わせるなど、差別政策を強めさせようとしてくる。

約百台の車をもって経営する富士タクシーは、大牟田地区業界を代表する大手企業。(大牟田全体で、約三百台)それだけに、大牟田地評や全国一般労組大牟田支部というように「こんどの闘争の影響するところは大きい」。

なお三池労組は、今後同分会の闘争を強く支援していく方針を、とくに中央委員会できめたが、その足で中央委員会にたたき金員を激励行動を行なった。

組合では、組合員個人、職場、地域、指導部などでのあらゆる支援行動をすすめている。

三川(各社宅)反対闘争について、有明炭の石炭輸送反対について、三川鉱長室事件裁判の控訴について、そのほか三三の件について決定した。

とくに有明炭が操業近くなるにつれ、いよいよ掘進が産出されてくることになり、それを三川鉱の選炭場まで輸送する問題が提起されてきた。

会社によれば、同鉱の坑底から三川坑まで通ずる運炭ベルトコンベヤーが、きたる昭和五十一年に完成を見る予定で、それまでの間産出する石炭を、とらええすトラックで三川坑まで輸送したい、というわけだ。ところがこれは、公害問題化している大牟田市中に、ムヤミヤタに石炭粉をまきちらす結果を招くことは明らか。

これは、三池労組として絶対に認めることができず、ただちに反対の意志を強く申し入れることになったもの。市民のためにも、この措置は許されぬ。

## 医療費はタダのソ連

欧米では改善運動高まる

外国の高令者福祉政策

賃金の八〇%保障を政府に要求。イギリスでは基礎年金の二八%アップを要求、この春にはロンドンで大デモが行なわれました。

医療 医療制度は社会主義国が充実しています。ソ連では、どんな種類の医療サービスも無料です。国家が水準の高い、数多くの医師、医療と予防施設を提供します。また保養地の充実や老人ホームも保健施設の拡充として進められています。保健施設の管理は労働組合が行ない、費用はすべて企業負担。労働者に支払った賃金総額に対する一定の比率で負担するようになっています。

一方、アメリカでは、医療情報サービスにコンピュータを使うなど高度に進んでいますが費用が高いのが問題。七〇年の水準で一日平均八十ドル(約一万八千円)、入院八日間を合計六百四十ドル(約十三万円)もかかり、「アメリカでは病気を治す」といわれるほどです。

雇用 外国では高令者福祉を単に生活保障、医療保障だけでなく、生活保障、医療保障だけでなく、健康管理、社会的生産活動への参加を保障しているところもあります。

オランダのアイントホフフェンには、高令者だけの工場があります。十数年前に「退職者の健康管理には労働が効果的」ということから協同組合として設立されたもの。六十五歳から八十歳までの高令者二百五十人が電機関係のサンプルや教材を作っています。作業は二交替制で三時間。仕事はのんびり、賃金は全取益から必要経費を引いた残りを平等に配分しています。工場の設立は当初、フィリッパ社の援助で始められましたが、現在では独立しています。

年金 欧米や社会主義国では、社会保障費総額のうち年金が約四〇%と六〇%を占めています。日本人は約八% (一九七三年版ILO社会保障費資料)。また、GNP(国民総生産)に占める年金額は、西独九・二%に対し、日本は僅か〇・四%。老令年金についても日本は、後進国、並みです。

年金額の保障では、フランスが六十五歳で、裁定時前十年間の平均賃金の六〇%(被保険者期間三十年以上で一般年金から四〇%、補足年金から三〇%)。西ドイツでは、退職前三年間の評価賃金の二・五%に被保険期間を乗じた額。昨年度の年金最高額は十四万五千円、平均で九万円でした。ソ連では賃金(年間平均賃金)の最後の十年間で最高五カ年間の一月平均(五〇〇〜一〇〇%)が支給されています。

一方、世界的なインフレの高進は、欧米諸国でも年金所得者の生活苦を増大させ、労組とともに年金アップの闘いを高揚させています。フランスでは年金取得年齢を六十歳に引き下げ、